

新春を迎えて



一宮市長
中野 正康

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新たな感染症との戦いにメドが
つき、社会経済が大きく変化した一年でした。
「第68回おりもの感謝祭一宮七夕まつり」を
ほぼコロナ前の状態で開催して、秋には繊維
産業を中心に地域の魅力を発信する尾州フェ
ス（BISHU FES.）も盛大に行うこと
ができました。東京ガールズコレクション
（TGC）と協力したファッションショーでは
真清田神社の境内のステージで、一宮市出身
の車いすテニスプレーヤー小田凱人選手や有
名モデルの皆さんが尾州産の生地を身にまと
い、魅力を発信してくれました。昨夏の小田
選手の世界一！のニュースは、一宮市のみな
らず日本全国が元気をもらいました。みんな
が個性をいかして輝くことができる地域づく
りを続けてまいりたいと思います。

現在、一宮市と羽島市の間を結ぶ新濃尾大
橋（仮称）を建設中で、来年2025年度に開通
の予定です。木曾川沿いの魅力をアップさせ
るために、サイクリングロードの整備を進め
てきましたが、今春には富田山公園エリアに
スケートボードパークも完成します。引き続
きスポーツとレクリエーションの爽やかなエ
リアとして魅力をアップさせてまいります。

市中心部の交通問題にも積極的に取り組ん
でおります。国道22号線・名岐バイパスを
中心に、慢性的な交通渋滞が市内各所で発生
しています。解決するために名岐道路の高速
化や幹線道路の整備に向けて活動しておりま
すが、あわせて地域の皆さまの生活環境の向
上に取り組んでまいります。

本年が皆さまにとって、幸多き年となりま
すよう心から祈念申し上げ、新年のごあいさ
つとさせていただきます。



一宮市議会議長
岡本 将嗣

あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、明るく健やかな新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類となり、その後のさまざまなイベントなどが大きな規制や制限をすることなく実施され、社会はコロナ禍前のにぎわいを取り戻してまいりました。

一方で、世界に目を向けてみますと、ウクライナ紛争に加え、中東のパレスチナ自治区のガザ地区でも紛争が起こり、情勢はますます混沌としてきております。原油価格や物価の高騰は収束する様子がなく、引き続き市民生活や地域経済に大きな影響を与えています。

本市は、新型コロナウイルス感染症の対応策で培った経験を生かし、アフターコロナの新たな生活様式への行動変容を踏まえ、市民

の皆さまの日常生活を守ることを最優先に、地域経済の安定とさらなる発展を図るための施策を進めてまいります。

市議会といたしましても、より暮らしやすいまちづくり、魅力あるまちづくりについて議論を深めていくとともに、時代の流れに即した議会のICT化に意を用いて、意思決定機関としての機能を強化してまいります。

今後とも、議員一丸となり、どなたにでも分かりやすい市議会となるよう、また、多岐にわたるさまざまな課題に対し迅速かつ確かな施策を実現できるよう、力を尽くしてまいりますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、本年が皆さまにとって幸多き年となりますよう祈念いたしまして、年頭のあいさつといたします。